



## 第44号

2020年 12月11日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail: kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680

『神戸真生塾の創立130周年の  
記念日にあたって』

児童養護施設神戸真生塾 施設長 上杉 徹



よいのか迷う日が続いているか  
と思います。

実は今回の新型コロナウイルス  
については日本の国だけでなく  
世界中の人々、子どもも大人も  
みんな一齐に難しい試験にチャ  
レンジしています。そして、こ  
の課題には正しい解答はありま  
せん。「えーなんで？」と思う  
かもしれません、大人になり  
社会に出ると誰も答えを教えて  
くれない、採点してくれない問  
題がたくさんあります。この問  
題の間違ひは「それぞれが自分  
勝手な行動をする」こと、「今  
だけ、自分だけ良ければよい」  
「感染した人を差別するところ」  
「間違った人間を批判するここ  
ろ」という行動です。そして正  
しい答えを創り出すのは皆さん  
自身です。

25年前の神戸の地震の時は神  
戸、淡路、西宮、宝塚等の一部  
の街が被害を受け、それを世界  
中から日本の国内のいろいろな  
ところから「ボランティア」と  
いう「やさしいところ」がたく  
さん集まり、みんなを助けてく

れました。地震の起きた朝は隣  
近所の「やさしいところ」を持  
つ人々が助け合って、それぞ  
れのいのちを守りました。9年前  
の東日本大震災、その後の熊本  
地震、昨年までの岡山・広島・  
千葉での台風等の水害の際もそ  
うでした。

今回のコロナウイルスは世界  
中の人々が一齐に大変な状況で  
困っています。しかし、助け合  
うこと、少しずつ、持っている  
もの、それはみんなの力ややさ  
しさを少しずつ出し合うことで  
困っている人々を助けることが  
できます。子どもでも大人でも  
お年寄りでも障害を持つ人も、  
障害を持たない人も女の子でも  
男の子でも誰もができることで  
す。本日読んだ聖書の5千人の  
給食物語のようにみんなが少し  
ずつやさしい気持ちを出し合え  
ば大丈夫です。感染する人が少  
しずつ、少なくなり、また、学  
校が始まった時に、そのやさし  
い気持ちを周りの人に届けなが  
ら正しい答えを出してください。  
今日は神戸真生塾の誕生日で  
す今年で130歳です。130  
年前もたくさんの人々の「やさ  
しいところ」が集まって、道端  
で生活している人々や子どもた  
ちだけで路上で生活している人  
たちのために生まれました。今

も、ロータリー子どもの家では  
新型コロナウイルスの影響で、  
毎日ごはんが食べることができ  
ないお家にお米や食材を届けた  
り、おやつを届けたりしていま  
す。そのためにたくさんの人々  
が集まってやさしさを分けてく  
れています。

神戸真生塾で生活するみんな  
も周りの人を助ける人に、支え  
る人になってください。神戸真  
生塾でたくさんあそんで、たく  
さん勉強して、時にはケンカも  
するけれど、すぐに仲直りし  
て、力を合わせてください。

神戸真生塾の130回目の誕  
生日、みんなが元気に過ごせる  
ことをお祈りします。」

子どもたちは本当にこの緊急  
事態宣言が発令された後の外出  
自粛期間を我慢しながらもしつ  
かりと過ごしてくれました。6  
月にそれぞれの学校再開する時  
点で一人の感染者も出ることな  
くそれぞれの学校に通ってくれ  
ています。まだまだ予断の許さ  
ない状況ではありますが、子ど  
もたちの頑張りや職員さんの頑  
張り、感染の第二波が来ても、新  
しい困難が来ても乗り越えてい  
けるかと思えます。子どもた  
ち、職員の皆さまに感謝です。  
「ありがとうございます。これ  
からもよろしく願います。」

《社会福祉法人

神戸真生塾》

二〇二〇年度

事業計画

神戸真生塾は今年五月に百三十周年を迎えました。歴史的に関わった子どもたちを大切に養育し社会に送り出してきました。新しい年度も全職員が神戸真生塾の運営・発展の担い手として、主体的意識と責任を持ちつつ、子どもの養育・支援にあたっては、最善の利益を常に考慮し、人権擁護についても意識し、時には子どもたちの代弁者として権利を守る存在として日常の営みを行います。



## (1) 乳児院（真生乳児院）

今年度も定員三十名での事業を推進し、これまで通り一クラス五名で二クラスを一ユニットとした、三ユニット（計三十名）の小規模グループ体制で運営します。このうちのクラスは乳児早期の児の安全と感染防止を目的として、0か月～四ヶ月未満の乳児のみとします。保育士・看護師・管理栄養士・調理員、および二名の家庭支援専門相談員（FSW）、里親支援専門相談員、育児指導担当職員、家族療法担当職員、個別対応職員、臨床心理士を配置して、子どもたちにとって入所から退所にいたるまでの期間を継続した養育が行われるように特に配慮しています。

## (2) 児童養護施設

(神戸真生塾)

二〇二〇年三月に発表される『都道府県社会的養育推進計画』を基にこれからの十年の歩みを始めます。神戸市の策定する推進計画を受けて、①養育モデルの確立②ICT化の推進③地域小規模への準備④地域に開かれた児童福祉施設の四項目を重点

課題と捉えて国や各都道府県・神戸市が推進する『新しい社会的養育ビジョン』に従いつつ、期待される役割以上の施設を目指し神戸真生塾が考える『社会的養育ビジョン』を構築して発信できるようにしていきます。



## (3) 児童家庭支援センター

(ロータリーこどもの家)

二〇二〇年度も子育て支援事業と相談支援事業の充実と、それらの相互作用を活かした支援を中心に、多職種チームの専門性を活かし、地域に根差した質の高い子育て支援を行っていきます。二〇二〇年度の当センターの研修テーマは、相談支援事業、子育て支援事業、虐待対応、里親支援等のどの場面でも重要な「アセスメント力」とし、センター内研修、外部研修等を通して向上を図ります。

## (4) 幼保連携型認定こども園

(真生きらきら保育園)

幼保連携型認定こども園に移行して三年目を迎えます。今年度は清風幼稚園の閉園に伴い一階園舎の改修工事を行います。神戸市内、特に中央区はまだまだ待機児童が減少しない地域であり、神戸市立山の手小学校前の旧気象台の跡に大規模マンションの入居が始まり、子どもの数が増加しているエリアであります。神戸市からも既存の施設を最大限に使っての二〇二一年度からの定員増が期待されています。単なる利用定員の増を考えるのではなく、地域の子育て支援センターとしての役割を中心に地域のニーズに応えるべく、将来像を検討していきます。



## (5) 児童自立生活援助事業

(神戸市児童自立援助ホーム)

子供の家

近年、入居する青少年たちの課題は、医療的なケアや障害等による専門的かつ複合的な支援を必要としているケースが多くなり、就学支援のニーズも全国的に増えてきている現状から、自立援助ホームの運営維持と抜本的改革を視野に入れながら、さらなる体制整備と社会的養育の充実を図るため、全国自立援助ホーム協議会を通し、要望を出し、各地域ブロックの連携を深め、子ども達への援助はもろんの事、職員の資質向上を図り、関連機関との連携をしていくよう努力していきます。





## 《児童養護施設 神戸真生塾》

### 自粛期間の

### 過ごし方



コロナ禍により、世間もあわただしく自粛を呼びかける中、施設の生活にも多くの変化がありました。日々の体温チェック・消毒の徹底・こまめな換気に加え、施設の中の設備の利用にも制限を設け、コロナ対策を行っていきました。このような日常の変化は子ども達にとっても大きな変化であり新たなストレスの要因となり得るに十分な変化でした。

自由に外で遊べない、他部屋児童との交流も出来なくなり、自然と同部屋のメンバーで過ごすことが多くなりました。そこで、部屋でも出来る遊びを考え、楽しい時間となるよう工夫していきました。中でもボードゲームはこういった時には熱中できる遊びです。また、ボード

ゲームにも種類があり、協力したり、はたまた競い合ったりと子ども達と一緒に職員も楽しめました。普段の生活では見えない一面が、遊びを通して見えることもあり、新たな発見となりました。

コロナ禍による自粛期間は、学校も休みとなり友人と会えず、子ども達にとっても楽しい期間ではありませんでしたが、その期間をいかに楽しく過ごせるか、また普段では体験しえない非常をどのように楽しめようとするかが私たち職員にとっても工夫のしがいがあり、自粛期間が終わってみれば例年とは違う新しい思い出として残っています。

新型コロナウイルスは、世間に大きな影響を与え、大変な被害が発生しました。しかし、現

在懸命に乗り越えようとし、被害を食い止めようと工夫し実践している事は、今後の児童養護施設での生活にとってプラスになる事もあり、まわりまわって施設で生活する児童のより良い影響となることであると発起し、いち早くこのコロナ禍が収束することを祈り日々の生活を自粛期間以降も過ごしていきます。

山本 惇矢

### 夏の

### お楽しみ会

今年は1月からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、夏の恒例となっていた納涼大会は協議を重ねた結果中止となりました。感染症予防の為に行動制限の多い日々を過ごしていた子ども達に感染症予防に留意しながら何か楽しめるものがないかと考え、今年度は入所児童と職員のみで小さな夏の楽しみ会を実施しました。小規模・時間短縮・新しい生活様式



に見合ったかたちでの実施となり、例年に比べるととても小さな会となりましたが子ども達も夏のお楽しみ会を思い思いに楽しむ姿を見ることができました。夏のお楽しみ会では輪投げ・射的・ヨーヨーすくい・魚釣り・ビンゴゲーム・お宝市などを楽しみました。また、素敵な浴衣を着てお祭り気分を存分に味わう子どももいました。更に、

感染症予防のため模擬店での食事提供は一切行いませんでしたが、昼食・夕食時に納涼大会での人気メニューを各部屋で食べることで食事面でも納涼大会気分を味わうことができました。

今年の夏は新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、子ども達は気



持ちの部分でもしんどさを感じやすい時期でした。そのような中でも、夏のお楽しみ会を通して沢山の子ども達の笑顔を見ることができとても嬉しく感じました。更に、新しい生活様式に少しずつ順応していく子ども達の姿を見て、改めて子ども達一人ひとりが持つ生きている力を強く感じるようになりました。

今年度は小さな会となりましたが、またいつか皆さまをお招きして子どもたちと楽しい交わりの会が出来る日を楽しみにしております。今後とも変わらぬいご支援をどうぞ宜しくお願いします。

小林 美佳

## 《乳児院 真生乳児院》

### 赤ちゃんだけの部屋を作りました



乳児院では長年に渡り、各居室において0歳児を含む縦割り養育を行ってきました。縦割り養育では、子どもたちの関わりが続く中で年上の子どもには年下の子どもをいたわる優しさが芽生え、年下の子どもが年上の子どもに憧れ真似をするといった、人との関わり方が自然と身につく機会となる利点があると言われています。しかし、抵抗

力の弱い0歳児への感染予防については近年問題視されてきました。

院内で感染症が発生した場合は、0歳児の逆隔離を行うなどの対策をとってきましたが、感染を完全に防ぐことは難しく、重症化し入院となってしまうケースもありました。また、10ヶ月間過ごしてきた母体から外の世界に出てきた早期新生児のストレスを最小限にするために、本来なら母体環境に近づけた環境作りが必要です。しかし、縦割り養育では静かな環境を作ることが難しく、授乳中も他児の行動に注意を配らないといけないことでゆったりとした授乳時間の確保が難しいということがありました。

そういった中で、いかに0歳児の安心安全が保障できる生活環境を作れるかが課題としてありました。そこで、熟慮を重ねた結果、今年度から赤ちゃん部屋を新設することとなりました。子どもの発育状況や基礎疾患にもよりますが生後から4ヶ月までを目安としています。静

かで落ち着いた環境の中で一人一人のペースに応じ、応答的な関りがしつかりと行えることで、より健やかな成長がみられるように感じます。また、限られた職員の出入りとする事で感染管理も行えています。赤ちゃん部屋の職員は、赤ちゃんの笑顔やミルクを飲む時、沐浴時の幸せそうな顔に毎日癒されています。そして、力強い泣き声には生命力を感じ、これから成長が楽しみです。

豊田 恵美



### やつと いけたね こども園

乳児院では5才の年になるとご家庭の子どもたちと同じようにこども園に通います。Kちゃん

んもその一人です。

4月1日、Kちゃんの待ちに待ったきらきらこども園の入園式がありました。緊張していましたが、名前を呼ばれたら小さな声で「はい。」と手を挙げて返事が出来ました。式が終わるとこども園で遊べると思っていたようでしたが、その日はすぐに帰ることになっていたのです。少し残念そうにしていました。新型コロナウイルスの影響で、その後登園出来ませんでした。が、お友達や先生に会える事を楽しみに毎日過ごしていました。Kちゃんの生活している乳児院のクラスでは、Kちゃんが一番お姉さんになります。「きらきらさん行くお姉ちゃんやもん」と言って、年少児のお世話をしたり、職員のお手伝いをしたりしてくれます。また、「こども園の先生びっくりするかな?」と言って苦手な野菜を食べる姿も見られました。6月15日に再開となり、前日からこども園に着ていく服、荷物を用意し楽しい気持ちでいっぱいだったKちゃんはいよいよきらきらこども園に登園しました。人見知りがあつたKちゃんは、想像していた以上に緊張してしまつたようでした。

ましたが、次第に慣れ、日常会話の中でこども園の先生やお友達の名前がよく聞かれるようになりました。数週間登園を見守ってきましたが、成長の様子が目に見えてわかり、益々頼もしいお姉さんになっています。こども園のお話をするKちゃんの顔はとってもかわいいです。

日浦 葉奈





# 《認定ぐも園

## 真生きりぎり保育園

### 笑顔で

### 元気に過ぐす

園長 橋本美記代

昨年度末から新型コロナウイルス感染症予防の為、保育園では特別保育となり少ない人数での保育を実施していました。6月半ばより全員が登園するようになり、子どもたちは、久しぶりにお友だちに会えてとても喜んでいました。また、今年入園されたお子様は、6月からのスタートとなり、保育園では毎日、子どもたちの笑顔と泣き顔で賑やかになりました。

保育園でも「3密」に留意して過ごしていますが、小さな子どもたちは、抱っこやおんぶが大好きです。人間形成において大事な乳幼児期に人との触れ合いは必要です。子どもたちが安心して過ごせるように、保育教諭が体調管理に十分に気を付けて、感染予防の為に、手洗いうがい、室内の消毒に留意しています。

保育園では毎週水曜日に園庭開放も再開しました。園庭で在園児と一緒に遊んでいます。地域のお子様は、感染予防の為、遊び場が制限されていることと思います。どうぞ遊びに来てくだ

### 子どもの様子

#### ももぐみ（一歳児）

ももぐみは6月15日によく9名揃った朝を迎えることができました。久しぶりの登園の子どもたちは、大好きなおうちの方と離れる不安から泣く姿もありましたが、お部屋を探索したり好きな遊びやおもちゃを見付けたりしながら少しずつ慣れていつているようです。一人一人の気持ちや生活リズムに寄り添いながら、楽しく過ごしていきたいと思っています。

6月、ももぐみはお散歩に行ったり、段ボールハウスや指スタンプをしたりして遊びました。段ボールハウスは5月末から



頼光 彩子

きな遊びのひとつです、窓から「ばあ」と顔を出したり、段ボールハウスに出たり入ったりと繰り返ししたりしています。今後は段ボールハウスになぐり書きをしたり、シール貼りをしたりしながら、まだまだ遊んでいく予定です。

指スタンプでは、傘のイラストにスタンプをして、雨に見立てに行いました。「あめ」「ざーざー」と言いながらスタンプをしたり、絵の具そのものの感触を感じたり、画用紙に色が付くことを喜んだり、いろんな反応がありました。小雨のものから大雨の作品まで、個性がでてとても面白い作品となりました。これからも、季節の制作を窓やお部屋に飾りますので、楽しみにしててください。

#### ぶどうぐみ（三歳児）

新型コロナウイルス感染症予防に伴う家庭保育のご協力ありがとうございました。

6月15日からクラス全員が揃い、元気いっぱい姿を見せてくれているぶどうぐみの子どもたち。お友だちと遊べる喜びを感じているのか「一緒にあそぼー！」「○○ちゃんこっちきてー！」「え、子ども同士の絆がより一層深まったような気がします。」

先日、初めてのリトミックが行われました。初めて会う講師のかねこ先生に、少しドキドキしながらもしっかりと挨拶をする子どもたち。タンブリンを使っての自己紹介では、リズムをとって返事をすることができていましたよ。ピアノの音を聞くと嬉しさが溢れだしたのか「きゃー！楽しい！」と、キラキラの笑顔を浮かべながら、広い遊戲室を思い切り走って楽しんでいました。



「い！」「今日は晴れたからお外に行こう？」とリクエストをくれる子どもたち。外遊びではだんごむし探しがブームです。バケツとスコップを持って「おったー！だんごむしこっちにいっぱいいるよ！」「え！見せて！ほんまやー！」「見て！おっきいのつかまえた！」と、会話を楽しみながら遊んでいます。

このような元気いっぱい子どもたちの様子を、週に一度写真に撮って掲示しておりますので、帰る際にぜひご覧ください。このような状況の中ではありますが、子どもたちの成長をご家庭と共に見守っていききたいと思っています。



坂東 遥  
矢尾 愛

# 新任職員紹介

## 児童養護

荻須 日奈子



【趣味】読書、映画

【特技】絵を描くこと

【抱負】この度、つばきの部屋に配属となりました、荻須日奈子と申します。慣れない事も多いですが精一杯頑張り、子ども達と一緒に成長していきたいと思っております。

## 乳児院

浅田 夏希



【趣味】かき氷巡り

【特技】マンドリン

【抱負】慣れない事ばかりで大変ですが、少しでも子ども達が笑顔で楽しく過ごせるような手助けをしていきたいと思っています。これからよろしくお願ひ致します。



名児耶 真理



【趣味】散歩

【特技】ピアノ

【抱負】中学生の頃から乳児院で働きたいと思っていたので、真生塾の一員になれてとても嬉しいです。子どもにとって安心できる存在になれるように日々精進したいと思っています。

後藤 宏依



【趣味】お菓子作り

【特技】ヨガ

【抱負】福祉、養育を日々子ども達、先輩方から学ばせて頂いています。少しでも早くお力になれるよう努めて参ります。よろしくお願ひします。

## 保育園

佃 知香



【趣味】旅行、ドライブ

【特技】沢山食べること

【抱負】子どもたちと過ごす時間を大切にしていきたいと思っています。一人一人の気持ちに寄り添い、関わっていききたいと思ひますのでよろしくお願ひ致します。

ます。

川内野 裕子



【趣味】ミュージカル鑑賞、音楽鑑賞、旅行、物作り、車の運転

【特技】ピアノ

【抱負】これまで学童保育所と幼稚園で勤務してきました。その経験を生かし、子ども達が安心して笑顔で過ごせるように関わっていききたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

山本 菜生



【趣味】料理、ゲーム

【特技】バレーボール

【抱負】子どもたちと一緒に過ごす時間を大切に、また子どもたちと一緒に成長できるよう保育に励んで参りたいと思ひます。これからどうぞよろしくお願ひ致します。

矢尾 愛



【趣味】音楽を聴く、アクセサリー集め

【特技】一輪車

【抱負】子ども一人ひとりを笑顔に出来るよう励み、これまで大学で学んだこ

とや実習の経験を活かして頑張っていきたいと思ひます。精一杯頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

宇佐美 瞭



【趣味】映画鑑賞、旅行、銭湯

【特技】どこでも寝られる

【抱負】子ども達の成長を傍で見守っていき、出来ることを日々発揮していきけるような保育をしていきたいと思ひます。これからよろしくお願ひします。

## ロータリー

向井 有紀



【趣味】トレーニング、旅行

【特技】体を動かす事

【抱負】入職した時の新鮮な気持ちを忘れず、誠実に来所する子ども達や保護者に関わっていければと思ひます。今後とも一生懸命頑張り参りますので、よろしくお願ひ致します。



# ありがとうございました

## 寄付並びに児童招待ご芳名

敬称略・五十音順

(二〇一九年二月一日～二〇二〇年六月三十日)

### 寄付金

大社貴子  
上杉徹  
敷田紀久子  
加渡  
神戸グローバルチャリティ  
フェスティバル  
外山昇  
友藤喜久子  
藤井祥子  
森田直子  
李福美  
綿谷栄子

### 寄付物品

岩本美紀恵  
上田亜也子  
NPO法人FORCA  
大社貴子  
沖縄タイムズ  
小原君子  
㈱中澤ホールディングス  
㈱アシックス  
ケンコーマヨネーズ  
公益社団法人全国環境対策機構  
神戸サウナ  
コストコ  
孤下喜哉  
佐田真由美  
高橋ひとみ  
伊達直人  
テディベアネットワーク  
照喜名みくに  
チュチュアンナ  
広瀬俊道  
廣田剛  
P & G

### 児童招待行事等

フレーベル館  
平郡雅代  
みらいこども財団  
みなと銀行  
無印良品  
森下まりあ  
ラベドール  
綿谷栄子  
劇団「夢」サーカス  
三宮センター街  
2丁目商店街振興組合  
K O B E ・ 三ノ宮  
ひと街づくり協議会

※第43号にて寄付金者と寄付物品寄贈者の名前が入れ替わっていました。お詫びして訂正致します。

## 子どものつづき

★シュークリームを食べている時に「幸せ」と言っていたS君。中のシュークリームがこぼれそうになったとき「幸せがこぼれる」と慌てていました。  
(S君・5歳)

★いつも使っているトイレットペーパーは柔らかいけど、今使っている分は少し固め。K君が「お姉ちゃん、トイレットペーパーがキッチンペーパーに変わったで!」と。  
(K君・9歳)

★アナ雪の歌をご機嫌に歌い、最後のフレーズを「少しは寒いわ」と替え歌に。思わず吹き出してしまいました。  
(Kくん・10歳)

★ディズニールンドの話になり「東京ディズニールンドって東京にあるんじゃないかと鳥取にあるんで!」と得意気に教えてくれました。  
(Aちゃん・10歳)







第44号

2020年12月11日

○発行  
650-0004  
神戸市中央区中山手通  
7丁目25-38  
神戸真生塾広報誌編集係  
TEL (078) 341-5897  
FAX (078) 341-8239  
E-mail: kouhou@kbsheinsei-j.org

○振替口座  
郵便振替01100-8-18680

## 『神戸真生塾の創立130周年の 記念日にあたって』

児童養護施設神戸真生塾 施設長 上杉 徹



よいのか迷う日が続いているか  
と思います。

実は今回の新型コロナウイルス  
については日本の国だけでなく  
世界中の人々、子どもも大人も  
みんな一斉に難しい試験にチャ  
レンジしています。そして、こ  
の課題には正しい解答はありま  
せん。「えーなんで？」と思う  
かもしれません、大人になり  
社会に出ると誰も答えを教えて  
くれない、採点してくれない問  
題がたくさんあります。この問  
題の間違ひは「それぞれが自分  
勝手な行動をする」こと、「今  
だけ、自分だけ良ければよい」  
「感染した人を差別するところ」  
「間違った人間を批判するここ  
ろ」という行動です。そして正  
しい答えを創り出すのは皆さん  
自身です。

25年前の神戸の地震の時は神  
戸、淡路、西宮、宝塚等の一部  
の街が被害を受け、それを世界  
中から日本の国内のいろいろな  
ところから「ボランティア」と  
いう「やさしいところ」がたく  
さん集まり、みんなを助けてく

れました。地震の起きた朝は隣  
近所の「やさしいところ」を持  
つ人々が助け合って、それぞ  
れのいのちを守りました。9年前  
の東日本大震災、その後の熊本  
地震、昨年までの岡山・広島・  
千葉での台風等の水害の際もそ  
うでした。

今回のコロナウイルスは世界  
中の人々が一斉に大変な状況で  
困っています。しかし、助け合  
うこと、少しずつ、持っている  
もの、それはみんなの力ややさ  
しさを少しずつ出し合うことで  
困っている人々を助けることが  
できます。子どもでも大人でも  
お年寄りでも障害を持つ人も、  
障害を持たない人も女の子でも  
男の子でも誰もがができること  
です。本日読んだ聖書の5千人の  
給食物語のようにみんなが少し  
ずつやさしい気持ちを出し合え  
ば大丈夫です。感染する人が少  
しずつ、少なくなり、また、学  
校が始まった時に、そのやさし  
い気持ちを周りの人に届けなが  
ら正しい答えを出してください。  
今日は神戸真生塾の誕生日で  
す今年で130歳です。130  
年前もたくさんの人々の「やさ  
しいところ」が集まって、道端  
で生活している人々や子どもた  
ちだけで路上で生活している人  
たちのために生まれました。今

も、ロータリー子どもの家では  
新型コロナウイルスの影響で、  
毎日ごはんが食べることができ  
ないお家にお米や食材を届けた  
り、おやつを届けたりしていま  
す。そのためたくさんの人々  
が集まってやさしさを分けてく  
れています。

神戸真生塾で生活するみんな  
も周りの人を助ける人に、支え  
る人になってください。神戸真  
生塾でたくさんあそんで、たく  
さん勉強して、時にはケンカも  
するけれど、すぐに仲直りし  
て、力を合わせてください。

神戸真生塾の130回目の誕  
生日、みんなが元気に過ごせる  
ことをお祈りします。」

子どもたちは本当にこの緊急  
事態宣言が発令された後の外出  
自粛期間を我慢しながらもしつ  
かりと過ごしてくれました。6  
月にそれぞれの学校再開する時  
点で一人の感染者も出ることな  
くそれぞれの学校に通ってくれ  
ています。まだまだ予断の許さ  
ない状況ではありますが、子  
どもたちの頑張りや職員の前  
で、感染の第二波が来ても、新  
しい困難が来ても乗り越えてい  
けるかと思えます。子どもた  
ち、職員の皆さまに感謝です。  
「ありがとうございます。これ  
からもよろしく願います。」